

校内研修「救急救命講習」

9月19日（木）、考査期間の放課後を活用し教職員の校内研修「救急救命講習」を実施しました。生徒に関わる緊急時の傷病発生の際に迅速かつ適切な対応が出来るよう、心肺蘇生やAED、エピペンの正しい使い方について学びました。

本研修には、独立行政法人国立病院機構旭川医療センター病理診断科医長でいらっしゃいます玉川進先生を講師にお招きし、実技も含め約1時間の研修となりました。

玉川先生は本校のOBでもいらっしゃり、高校生当時の楽しい思い出話を交えながら、救急措置の重要性や救急救命における社会人としての責任や義務についてわかりやすくご説明くださいました。



その後、旭川南消防署の皆様にご指導をいただきながら、グループごとに心臓マッサージ、AEDの使用法について実技研修を行いました。

最初は一挙一動に不安を感じていた教職員も、自ら実践し他者の動きを参考にする中で、次第にスムーズにてきぱきとした動作を身に付けることができました。



講師のお話しにも、「練習で上手くいっても、いざ現実に遭遇した時は、なかなか冷静に対処することは難しい。」とありました。

それだけに、先生方も本番さながらの真剣さで心肺蘇生の実技を行っていました。



その後、エピペンの使用法についてもご指導をいただきました。学校におけるアレルギー疾患への対応はとても重要です。特にアナフィラキシーなどは、非常に短時間のうちに重篤な状態に至ることがあります。

そのためにもエピペンや内服等が処方されている場合は、その情報を共有し、誰が発見者になっても適切な対応をとれるようにしておかなければなりません。

教職員が常に生徒の安全を念頭に教育活動にあたる上で、大変有意義な研修となりました。